

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策1-2-1 売れる農林水産品・加工品づくり
---------	-------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	水産課長 細馬 康二	電話番号	0852-22-5311
----------	------------	------	--------------

事務事業の名称	栽培漁業事業化総合推進事業		
目的	(1) 対象	マダイ・ヒラメを漁獲する漁業者	
	(2) 意図	マダイ・ヒラメの資源を増加させることにより漁業生産を増大させる	
事業概要	栽培漁業の地域への定着化を図るため、当該地域の市町村・漁協・漁業者等による推進組織を基に、漁業者自らによる中間育成・放流・漁場管理・調査等を実施し、栽培漁業の事業化への促進を図る。		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			式・定義	放流マダイの混獲率	目標値	6.00	6.00	
式・定義	漁獲における鼻孔連結魚混獲率／放流種苗における鼻孔連結率（H14～H23の平均値73.3%）	実績値	4.40	7.60	6.40	8.30		%
		達成率		126.70	106.70	138.40		%
		指標名	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
式・定義		目標値		0.00	0.00			
		実績値	0.00	0.00	0.00			
		達成率		0.00	0.00			%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	12,304	12,050
うち一般財源(千円)	12,304	12,050

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

放流魚の混獲率は毎年度目標値を上回っている。ただし、混獲率は単年度での評価が難しいことから、次年度以降のデータを注視していく必要がある。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

・放流されたマダイ・ヒラメは成長して親魚となり、これらが産卵することによって資源の再生産に寄与していると考えられる。また、漁業者が中間育成、放流に参加することによって資源管理の意識醸成に役立っている。
 ・23、24年には、シュードモナス病により中間育成のヒラメの大量斃死がみられたが、25年以降は対策を講じることにより、発生を抑えている。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- ・中間育成施設が老朽化している。
- ・中間育成時に魚病が発生することがある。

②困っている状況が発生している「原因」

- ・中間育成施設は設置後、約20年が経過している。
- ・魚病が発生する原因を特定するのは困難である。

③原因を解消するための「課題」

- ・施設更新の方針を検討する。
- ・魚病発生の原因と考えられる事項について対策が必要。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- ・施設更新については、事業主体である（公社）島根県水産振興協会を中心に関係市町村、漁協で、必要となる費用等を動案の上、今後の方針を検討する。
- ・魚病については、発生時に原因究明と対処方法について検討する。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状」→「6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状」→「7. まだ残っている課題」→「8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）